

山口基礎ゼミナールの受講記録

国際日本学部

国際文化交流学科 一年

北村美衣、中澤桃花

教員 山口太郎

【ゼミナールの内容】

国際日本学部国際文化交流学科の山口基礎ゼミナールの授業構成を紹介します。第一回授業では、担当教員と受講生同士の自己紹介を行いました。第二回授業では、教員へのメールとレジュメの作成法について学びました。教員へのメールの作成では件名や内容の書き方、署名の設定法について学び、レジュメの作成ではワープロソフト(Word)の設定法、レジュメとはどのようなものか、そしてその作成法について学びました。また、先生が作成したレジュメを見ながら輪読をしました。第三回授業では、引用の仕方とネットによる文献収集による参考文献リストの作成について学び、実際に正しい並び順を正確に作成することができるを行いました。

第四回から第七回授業では、「都市」、「観光地」、「まち歩き」、「景観」、「地理」などに関する資料を基に自分たちが作成したレジュメを用いて輪読を行いました。

第八回授業では、エクセルを用いた表の作成について学び、基本的な操作方法とデータの収集方法を学びました。第九回授業では、観光ガイドブックを基にエクセルで表を作成し、どの観光地がど

れくらい大きさを取り上げられているか、取り上げられた観光地の写真の大きさや枚数などを指標として、イタリアの観光地の分析を行いました。

第十回授業では、横浜市の記者発表による横浜市の観光統計を基にエクセルでグラフを作成し、横浜に来る観光客は日帰り宿泊のどちらが多いのか、宿泊者は観光客の全体のうちどれぐらいなのかなど分析をしました。第十一回授業では、「国勢調査平成二十七年外国人人口」を基に外国人人口を棒グラフと円グラフを作成し、どの都道府県にどの国の人たちの人口が多いか、あるいは少ないかを分析しました。また、地理院地図を使用して横浜や東京の地形にはどのような特徴があるのか調べました。第十二回授業では、GISの使い方を学び、「国勢調査平成二十七年外国人人口」の資料とエクセルを用いて割合の式の立て方を学び、実際に主題図を作成し、どの都道府県に外国人が多く住んでいるのか、その要因は何なのかなどの分析を行いました。(北村美衣)

【受講生(一部)の感想】

教員へのメールの書き方はネットで調べれば載っていますが信憑性に劣るため、先生から直接

教えていただくことで教わる前と後で書き方が劇的に変化しました。課題提出や申し込みを行う際にメールはよく使用するので知って得をしました。授業の前半で行われたレジュメの作成では、今まで作成したことがなくかなり時間がかかる作業だったので、毎回のレジュメを最後まで作り上げることができなかったのが悔しく感じました。ですが、この授業でレジュメの作成法を学ぶことができたおかげで後期に行われたプレゼンの授業のレジュメ作成時にとっても助かりました。また、この授業を履修している学生が少なかったため、学生の要望に合わせて授業で使用する資料を選んで授業をしてくださり、個人個人の作業ベースに合わせて授業を進めてくださったので、全く苦に感じない楽しい授業でした。授業後半のエクセルを使用した授業では、エクセルで作成するグラフの作成法や統計の出し方など全く分かりませんが、先生が丁寧に教えてくださったおかげで作成できるようになりました。また、先生が資料として使用する際におすすめるサイトを教えてください。ただ、今後に使える情報を得ることができました。

私はもともとWordやエクセルに画像の挿入や

グラフの作成が得意ではなかったので、この授業を通して作成法を一から教えていただき今後でも使えるスキルを身につけることができました。(北村美衣)

私は今回基礎ゼミナールで、基礎的なパソコン操作やレジユメの書き方、地図ソフトの操作を教わりました。その中で特に授業を受けていて楽しかったのは、文献講読です。先生の研究対象は日本国内ですが、今回は学生の要望を聞き入れて、柔軟に対応してくださいと、海外についてのものも用意してくださいました。その中で、都市の景観について知るだけでなく、その都市の文化や歴史についても学ぶことができました。店が歩行者に合わせて作られているという事例や、富裕層が余暇を利用し旅行できたこと、景観は土地の構造や特徴だけでなく、歴史によっても作られていることなどが印象に残っています。海外についてのもの、日本についてのもの両方を読むことで、互いに共通点を持つことが分かり、面白いと感じました。

さらに、授業を受ける中で、一見関係ないようなことから調べてみるという新しい視点を得ることができました。また、観光は文化や歴史とはあまり関係ないのではないかと思っていました。各地の文化や歴史を通してこのような町並みになったのだと知り、興味を持つようになりました。私は今回教わった知識を今後の学習に活かしていきたいと思います。

他にも、地図ソフトやガイドブック、表データを使い、その地域の土地や人口の特徴について知ることもできます。観光に興味があるという人はもちろん、文化など他の分野に興味がある人にもぜひお勧めしたいです。
(中澤桃花)

【担当教員のコメント】

国際日本学部国際文化交流学科の基礎ゼミナールは、FYSに続く大学での学びに必要な基礎技能を磨くことが目的であると私は理解している。FYSと異なる点は、各担当教員ならではの基礎技能の提供の場であることだ。私は、人文地理学の立場から地域分析の方法を提供する場として、エクセルやGIS操作の習得を授業の中心に位置付けた。また、本学非常勤講師の頃からレポートの書き方の丁寧な指導が必要であると感じていたので、その実践の場とした。

初回授業時、受講生にこのゼミナールの履修理由を尋ねたら、観光などの知識も学べ、コンピュータ操作などの技能も学べることだという意見があった。シラバスからこちらの意図を理解した上で履修してくれていた。その期待に応えられるよう、振舞ったつもりだ。

さて、二〇二〇年度はコロナ禍にあったということ記録しておきたい。後期は一部で対面授業が再開されたものの、本ゼミナールは全てオンライン授業で実施した。オンライン授業には少なくとも教員側からは良い点もあった。ズームでの画面共有を通じて、エクセル等の操作方法は対面授業よりも伝えやすかった。学生側で問題が生じた時も画面共有をすることで、教員よりコンピュータ操作に詳しい学生による助言もありうる。オンライン授業で課題と感じたのは、ズームでは同時に複数で話すことができない点である。ゼミナールでは学生同士のちよつとした話からいい方向へ話が進んでいく場面があるが、こういったことができなかった。また、受講生の一人にコンピュータの不具合が多かった点も、通常では想定されない今年度ならではの課題であった。

国際文化交流学科では、前期のFYSを対面授業再開への期待から後期開講とした。そのため、FYSと基礎ゼミナールが同時進行となってしまう。それが理由かどうか分からないが、私以外の基礎ゼミナールも履修者数は多くなかったようだ。来年度以降、各基礎ゼミナールの受講を積極的に検討してもらいたい。必ず身につくものがあるはずです！
(山口太郎)